

2019年12月

【月報】

子牛の発熱を早期発見するための試験の実施

子牛がかかる病気の中で大きな割合を占める呼吸器病において、初期症状として発熱がみられるため、体温変化を監視し牛の異常を早期に発見、治療することが重要です。しかし、通常、牛の体温測定は体温計を直腸に挿入する必要があり、子牛はよく動くことから頻繁な測定には労力がかかります。

そこで、当センターでは発熱を早期に発見するために、子牛にセンサを取り付

け、自動で体温を常に測定できる技術の開発を進めています。

体温センサを用いて子牛の頸と肢、尾の各部位と直腸温度の相関を調査したところ、一部で高い相関が得られたため、データを継続的に取得し検証中です。今後は、得られた結果に基づき体温センサの長期装着方法や測定データの解析方法を検討していきます。

畜産センター



頸と肢、尾に体温センサを取り付けた様子（センサの測温値がパソコンに集積される）

【管内情報】

乳用初妊牛譲渡の取り組み

当センターでは所有する乳用牛のうち遺伝能力の高い牛から受精卵を採取し、他の牛に受精卵移植して牛群改良を行うとともに、産まれた雌子牛は自家産サイレージや乾草を多く与えて、十分に腹づくりをし、健康な後継牛を育成しています。

また、育てた雌牛は府内酪農家の乳用牛の改良に役立ててもらうため、優秀な種雄牛の精液を人工授精、受胎させて、分娩約2か月前に初妊牛※として譲渡しています。

11月27日に開催した初妊牛譲渡会では、府内酪農家に3頭を譲渡しました。今後も、優良な初妊牛を数多く供給し、酪農家の経営を支援していきます。

※初妊牛：受胎してから初めて分娩するまでの雌牛



譲渡した乳用初妊牛



譲渡会に参加する酪農家

畜産センター